

図書館においてある本の中から  
おすすめのものを選びました。  
バラエティに富んだ本を紹介します。

「ながしまのまんげつ」

原作 林家彦いち

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



創作落語からうまれた絵本。黒之瀬戸大橋がかかるとまへのながしまのおはなしです。一度、読んでみませんか？

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



「お坊さんがくれた拭いても拭いても涙がこぼれるお話」

著 浅田宗一郎

現役住職が書いた珠玉の読み切り短編小説です。

Pick Up publication

長島文芸

Nagashima Bungaku  
ながしまぶんげい

明神俳句会

田水沸く父は生涯一農夫  
淵脇 護  
 躑二つもつれて夫の墓の前  
二階堂恵子  
 嬰寝まり風船自由を取り戻す  
筑前 初市  
 霜髪のわらべとなりぬ零余子飯  
白男川孝仁  
 木下闇防空壕の穴二つ  
大堂 正弘  
 咀嚼として体力の要る大暑かな  
迫口 君代  
 古家の井戸もそのまま木下闇  
関 佳代美  
 菜園に蝶を飛ばせて無農薬  
大堂 早苗  
 夏蝶の渦たちのぼる黒之瀬戸  
坂口 静子  
 黒揚羽バイク一瞬かわし去る  
大堂 光幸  
 でで虫や煩惱の歩を残しをり  
山田 哲夫  
 産声の命の力夏の昼  
山寄加代子

創生短歌会

東風吹けば潮の匂いのわずかしてほてる厨房に風の入り来る  
竹之内重信  
 蟻幾匹虫を引きゆく道の辺を手をぶらさげて我は歩めり  
石原百合子  
 買わなくてならぬものなど何ひとつなければ店の品に触れみる  
野村 益信  
 売り声はいつもの時刻この里に軽トラック来る魚を積みて  
大塚 洋子  
 ご先祖の位牌を下げて磨きおり朝の仏間に風を入れつつ  
宮元 司  
 瓜畑に陽のあたりいて敷きつめし藁が時折はじける音す  
村上 義彦  
 夏の日に焼けて増々老いしるき顔が鏡の中に苦笑す  
山下 学

長島短歌会

相次ぎて逝きし夫婦の新盆は一入寂し墓の灯明  
坂之下典子  
 せせらぎの音優しけれ川の辺に数多の芙蓉花咲き初むる  
中山タマエ  
 漁火の遠くかすかに灯る夜は亡き友想ひ寂しさ募る  
濱田美代子  
 百日紅の紅花枝にふくらみて夕べの風にひと時揺らぐ  
浜畑 松枝  
 太陽が放つ灼熱の光浴び蒲団干しをり汗かきながら  
松元 睦子  
 お盆三が日御膳と焼酎供へつつ語りて亡夫の声を偲びぬ  
市尾 操  
 薄雲に覆はれ月は高く見ゆ流星待てど星影淡し  
岩下 ち江  
 鮮やかな花供へある盆の墓は日の暮るるまで香煙漂ふ  
岩下 房代  
 「荒城の月」合唱祭に胸つまる震災受けぬし熊本城想ふ  
樫平 頼子  
 銀座なるビルの屋上に養はれ百トンの蜂蜜出荷せしとぞ  
米尾 和子

一般作品

「短歌」  
幼子の毛筆ちからみごとほめわれはまだまだこれからまなび  
中飯屋辰子  
 声そろえ天草灘に陽は映えて歌いし友らいづこで生きん  
小林 貢  
 七年の長きに耐えて今ぞ鳴く雄は良けれど雌は鳴かざり  
小林 繁  
 生ビールうまきこの夏過ぎゆきぬビールのために働いた俺  
母木 良平  
 世に生れ父婦有りてぞ何事も家庭築いて頑張事よ  
町田 末則  
 「俳句」  
運動会重箱に伸ぶ箸の群れ  
脇田 武志  
 鎌立てて耳そば立つる嚙虫  
桐野 眞実